

第2回 岐南町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録（要旨）

日 時 : 令和6年10月28日(月) 9:00~11:00

場 所 : 岐南町役場4階 会議室4-1

出席委員: 益川浩一、黒田隆、丹羽貴彦、子安宗俊、樋口史子、櫻井明、松原俊喬、
岩砂典子、松原恵美、野原弘康

事務局 : 安田悟(総合政策部長)、椋田真広(総合政策課長)、総合政策課員 2名
アドバイザー(株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所) 1名

1 会長あいさつ

- ・第3期の人口ビジョンや総合戦略について、忌憚のない意見をいただきたい。

2 議題

① 岐南町人口ビジョン(第3期)について

(事務局)

- ・人口の推移や推計、自然動態や社会動態の状況に基づき、岐南町人口ビジョン(第3期)の事務局案(事務局推計②)を説明した。

(委員意見)

- ・外国人が含まれていないグラフがあるが、それはなぜか。

→ (事務局)

- ・該当グラフの比較データである岐阜県の将来人口推計が外国人を含んでいないため、同様とした。

(会長)

- ・岐南町人口ビジョン(第3期)は、事務局提案の「自然動態」と「社会動態」の推計値を加えた事務局案のとおりとしてよいか。

(委員一同)

- ・異議なし。

(会長)

- ・岐南町人口ビジョン(第3期)は、事務局案のとおり承認する。

② アンケート調査結果の概要について

(事務局)

- ・アンケート調査結果については、「移住定住」「岐南町の印象」「まちづくり」に関して、それぞれの回答結果を集計し、グラフ化したものを用いて説明をした。

(委員意見)

- ・骨子案等を策定する上で、住民の声は重要なデータになる。
- ・満足度も高く、住み続けたいという方の割合も高い結果が出ている。
- ・重要度と満足度を事象に分けて戦略を考えていける非常に参考になる。
- ・アンケート調査の有効回答数が365件の18.3%であるが、回答割合が低いように感じる。
- ・障害者や生活困窮者の意見が反映されているのか気になっている。

→ (事務局)

- ・一般的な国の標本調査は、信頼水準 95% 標本誤差 5% で設計され、調査に必要な回答数は、調査対象者数が 10,000 人を超えるあたりから、384 人程度で横ばいになる。
 - ・今回の調査は、365 件で若干少ないが、十分なサンプル数は確保できている。
 - ・回答率が少ないことは、サンプル数が確保できており、結果に影響ないと考える。
 - ・デジタルに不得手な方や、生活困窮者を意識して事業を検討していく。
- ・数値では表れない部分に、いかに目を向けていくのかが重要だと思う。
- ・防災では、自然災害が少なく安心して住めるという回答があったため、住民が期待する防災・防犯は、どちらかというところ防犯だと思う。

→ (事務局)

- ・警察から、侵入盗が多く、夜間に多くの車が集まる施設があると聞いている。
 - ・ボランティア団体がパトロール活動を行っているので、さらに活動が活発化することで住民の安心感も増すと思う。
 - ・防災は、排水の改良工事なども行っているが、激甚化した災害のニュースを見ると、心理的に満足度が低くなるのかもしれない。
- ・防災対策では、線状降水帯の被害が各地で出ているので、排水路の整備に課題がある。
- ・満足度の分布図を見ると学校給食費の助成の満足度が一番高いが、多額の支出を伴うものなので、様々な方向から見る必要がある。
- ・小中学校の教育環境について良くないという数字が多かった。
- ・調査結果の数値だけでなく、個別意見も探らないと根本的な解決には至らない。

→ (事務局)

- ・自由記述欄で、教育に関する個別意見はなかった。
 - ・事業見直しや新規事業の際は、教育委員会や各種団体の意見を聞き立案していきたい。
- ・新築が増え転入者も今まで以上に増えていて、子育てサロンの利用者が増えている。
- ・子どもの発達相談が増えており、町内に相談先が増えていることは保護者に喜ばれている。
- ・町外は相談先が少なく、相談先を探すのも大変なので、とても住みやすいと感じている。
- ・広報紙の公園特集のおかげで、自分の地域以外の公園に行くようになったという声を聞き、改めて広報が大事だと思った。
- ・買い物などの利便性が良い数値がとても高いが、足が悪く車も乗れないため、買い物に困っている高齢者の声も聞く。
- ・車のある人には便利なまちだが、高齢で車がないと大変で、80 歳を超えた運転者もいるので、交通事故などとても心配である。

→ (事務局)

- ・アンケート結果は、各年代のバランスが取れていたが、高齢者に配慮する必要がある。
 - ・買い物の課題解決として、コミタクとコミバスの活用の調査を進めている。
- ・SDGs には、誰一人として取り残さない理念があるので、複合的に意見を分析してほしい。
- ・住み続けたいと思う満足度の高いまちづくりが大事である。
- ・コミバスは利用者が少なく、もっと気軽に使えるものにしなければいけない。
- ・良いイメージとして、通勤・通学に便利とあるが、通勤という点では町内に優良な企業が多くある中で、地元で働いている方の意見が読み取れない。
- ・雇用環境が厳しさを増す中で、子育て世代も含めた若手を中心に取り込んでいくには、町内でどれだけの人が就労しているのか掘り下げる必要がある。

③ 岐南町地方創生総合戦略（第3期）の基本目標について

（事務局）

- ・第3期の策定に向けて、国が目指す方向性や新たな視点を鑑み、新たな基本目標を定めるに至った経緯と、第3期の基本目標の事務局案を説明した。

（委員意見）

- ・子どもの居場所づくりとして、こども食堂や放課後等デイサービスなどのハード面が進められているが、地域住民がどのような意識で子どもを見ているかが重要である。
- ・子どもの居場所は、ハード面だけでなく、ホッとできる場所や自分の力が十分発揮できる場所、人とつながれる場所というようなソフト面が増えてきていると思う。
- ・経営者として、今後従業員の確保の解決策として、外国人労働者が不可欠になっている。
- ・交通の便がいいまちは、危険なことも多いことを念頭に置いておく必要がある。
- ・デジタル化が進んでおり、ついていけない高齢者を、みんなで支援する必要がある。
- ・基本目標の「多様な」には、ダイバーシティとして、外国人、高齢者、女性などの多様な人が、相乗効果でプラスに働くことを目指す意味が含まれている。
- ・マイナスに働くこともプラスに転じていく視点で、施策を考えていくことが重要である。
- ・外国人労働者に、悪いイメージが先行しないよう、地域コミュニティでも企業内でも、文化の違いや生活習慣の違いを相互理解し、共存する取り組みが重要になってくる。
- ・2月からコンビニ交付が開始するようだが、マイナンバーカードの普及率はどれくらいか。
- ・カードを持っていない方にはどのように対応していくのか。

→（事務局）

- ・マイナンバーカードの交付率は、8割程度である。
- ・コンビニ交付の利用方法は、広報でお知らせする予定だが、今までどおりの役場窓口での対応もある。
- ・コンビニ交付は、昼間に役場に行けない方への利便性向上が主たる目的である。
- ・保険証がマイナンバーカードになったが、簡単で分かりやすいと実感している。
- ・高齢者には、分かりにくい印象があるが、使いやすさを多くの方に知ってもらいたい。
- ・基本目標はどれも大事だが、順番に意味はあるか。

→（事務局）

- ・「出生から現役世代」というつながりと、安心して住み続けたい要素を順番に配置した。
- ・すべて並列するものであり、どれか一つが欠けてもいけないというものである。
- ・一言で言い表せる言葉が、この基本目標から生まれてくると良い。
- ・基本目標を住民に共有しやすいよう、この4つに結び付く一言を検討してもらいたい。

→（事務局）

- ・検討させていただきたい。

（会長）

- ・基本目標1～4は、事務局案のとおりとしてよいか。

（委員一同）

- ・異議なし。

（会長）

- ・第3期の基本目標は、事務局提案のとおり承認する。

3 その他
(事務局)

- ・第3回は12月を予定。1月にパブコメ実施、第4回を2月頃予定。

以上